

中学生の「税についての作文」

大川大木租税教育推進協議会 会長賞

国を支える税金、税金を支える国民

大川市立三又中学校

三年 永尾 葉月

みなさんは、納税についてどのくらい知っていますか。国民の三大義務にもなっているのが「納税の義務」です。「税金」と二文字でまとめられています。実はたくさん種類の税が存在しています。個人の所得に応じてかかる所得税、住んでいる都道府県に納める住民税、自動車を持っていて人にかかる自動車税など他にもありますが、私達が一番身近に感じるのは、消費税だと思います。みなさんは、消費税などの税金をいつ払っているのか知っている人は多いと思います。では、それらの税金はどのように使われているのか知っていますか。税金の存在によって私達の生活がどれほど助かっているのか知っていますか。私は、税金の使い道について詳しく調べてみました。

今まで「もし、税金が存在していなかったら」ということについて考えてもいませんでしたが、この作文を書くことをきっかけに調べてみよう、目を向けようと思いました。税金の使い道で一番身近な使い道は、「公共サービス」のために使われることだと思います。公共サービスと

は、教育や医療、警察や消防などの人々が生活していく上で必要なサービスを提供することです。もし、この公共サービスがなくなると、公園も交番も市役所も有料になり、医療費が全額自己負担になります。それだけではなく、救急車も有料になったり、公園や学校の整備もされなくなってしまうのです。出費の額が増えたとその分、生活費が削られていき苦しくなります。医療費に至っては、とんでもない額になってしまいます。日本が国をあげて医療保険に税金をかけることにより、病気になってしまった場合、無料で救急車が病院まで運んでくれて、治療を安価な金額で受けることができました、それにかかった医療費の約七割は保険が負担してくれたり、もしもの場合にとっても助かります。そして、年金や介護などにかかるお金だってそうです。お年寄りの方、病気にかかっており介護が必要な人、事故または生まれつき体に障害を持っている人は、日本に何百万人もいます。彼らは、普通の人達のように学校に通いたい、仕事をしたいと思ってもできない状況にあるのかもしれない。そんな彼らの生活の支えも税金は活躍しているのです。欧米には、日本よりも税率が高い国がたくさんあります。消費税については、スウェーデンやデンマークは二十五パーセントと日本の三倍以上です。しかし、日本は社会保障が充実しています。年を取っても、国がしっかりと面倒を見てくれることは、とても安心です。

税金がなくなることで、いつもの生活が当たり前ではなくなってしまうのです。税金を納めるのも国民、税金を使うのも国民です。自分の生活が税金によって支えられていること、自分が納めている税金が少しでも他の人の役に立っていることを考えたら、気持ちよく納税できるのではないのでしょうか。